

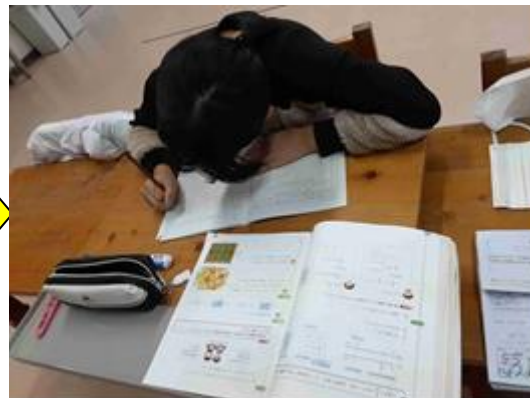
学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	南九州市立清水小学校	児童生徒数	4人
-----	------------	-------	----

振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等



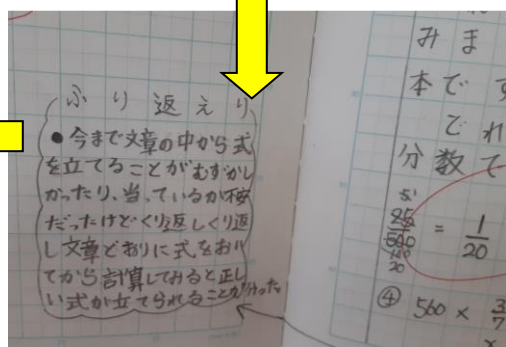
- 授業の展開の場面において、必ず問題をどのように考えて解いたのかを、図と文字、言葉でロイロノートに書き込みながら説明をします。



- 授業の終末に、学習のまとめを行った後、出来るようになったことや発見したこと、自分へのヒントになることを書く「振り返り」を行います。



- 振り返りをノートに書いた後、必ず発表します。教師は児童への価値付けをします。児童がうまく言葉に表現できない時は、どんな言葉が一番ぴったりのか一緒に考えて、ノートに付け足して書くこともあります。



取組についての概要（成果）

12月19日（火）第6学年 算数科「分数のかけ算・わり算」における復習時の実践
 本時の振り返りの目的は、単元を習ってから期間が空いた時に、定着していなかったものをどのように児童に発見させるかです。単元を習ったばかりの時の振り返りは、自分の知識・理解、思考・判断として定着したのかどうかは、少し不安定なところがあります。そこで、定着していなかったところを、どのような考え方で（つまりどのように自分で理解し、納得したのか）言葉に表現していくことで、「振り返り」を通して確かな定着を図りました。今後は、その時間を毎回とれるように、授業展開の精選を行ってまいります。